

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1992.

9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 100

日本野鳥の会 埼玉県支部

秋＝タカの渡り＝伊良湖岬

松井昭吾（大宮市）

真夏を少しでも過ぎると、早くも自然界には秋の気配。バードウォッチャーにとっては、シギ・チドリの南下のニュースが気になる季節でもある。ワシ・タカキチは、「秋＝タカの渡り＝伊良湖岬」と直結して、心はずませる。では、その伊良湖岬とはどんなところだろうか。

■■■■■■■■■■ 伊良湖岬のタカの渡り ■■■■■■■■■■

鷹ひとつ見付けてうれし

いらご崎

芭蕉(1644-1694)

約三百年も前の俳人も鷹を見上げていたこのいらご崎（伊良湖岬）で、最近では、地元の大ベテランが組織的なタカの調査をしている。東三河野鳥同好会を中心に、有志の協力で、9月、10月の2か月にわたり、夜明けから日没までを、実に克明に時間を追って、上空通過のトリの種類と数をノートに記入、その日の終りに集計する。このような地味な作業を既に10数年積み重ねているが、それによれば、伊良湖岬を渡るタカの類は、サシバが圧倒的に多く、次いでツミノハイタカ類、さらにハチクマ、ノスリ、チゴハヤブサの順となる。

また、種ごとにピークが少しずつずれており、サシバとハチクマは例年10月10日前後に最大数を記録している。ノスリのピークはやや遅れて10月の中旬、ツミは10月の終り頃。アカハラダカは従来は非常に少なく、一桁台だったのが、昨年は何と百数十羽の記録となり、渡りのコースに異変があったのか、と騒がれた。本年度は、そこに一つのポイントをおいて調査をする動きがある。サシバだけでも、1シーズン約2万羽がここ伊良湖岬でカウントされる。

■■■■■■■■■■ 恋路が浜 鳥友との交流 ■■■■■■■■■■

このロマンチックな名の海岸が渥美半島の先端近くにあり、その南側は黒潮に洗われ、南の国から椰子の実が運ばれてきた。有名な藤村の『椰子の実』はここで生れたという。

10月には、この恋路が浜駐車場は、全国から集まる Hawk Watchers（タカ・ウォッチャー）で満杯になる。毎年の顔馴染みもいて、正にフェスティバルだ。トリに会うこともさることながら、バードフレンド（鳥友・鳥友達）との交流も、大きな楽しみの一つ。駐車場でオートキャンプ式に滞在する人、テントを張って頑張るバードウォッチャー、またはずらりと並んだ民宿に泊まり、屋上の展望台からタカを追う人。

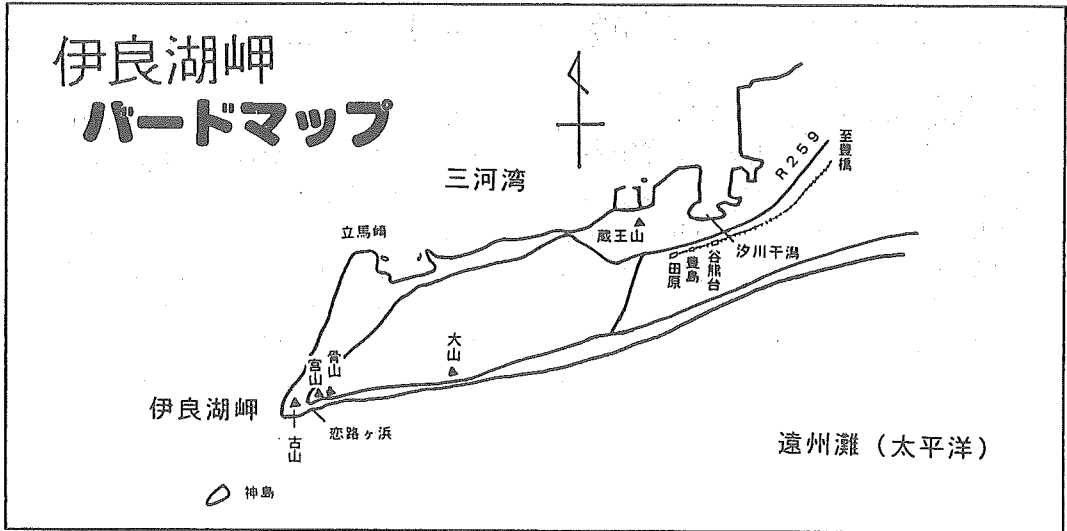
その民宿の一つ『井筒』の屋上こそ、定点観測の本部であり、司令部といったところ。サシバのカウントでその人有りとは知られた名古屋の辻淳夫さんも、ここに本拠を置き、永年データを蓄積しておられる。

そのサポート隊が、東三河野鳥同好会のメンバーだ。この人たちの眼の良いこと、早いこと、正に神業！ 一瞬にして「サシバ・15」「ハチクマ・12」「ヒヨドリ・150」、または「戻り・3」と呼び上げる。それを記録する人との呼吸もピッタリと合っている。

この人たちを暖かく迎えてくれていたのが『伊良湖のおじさん』、民宿『井筒』の井本保さんだった。惜しくも昨年ついに帰らぬ人となってしまったが、いつ立ち寄っても暖かく迎えてくれ、生粋の三河弁でその日のトリ情報を提供してくれ、黙ってコーヒーをいれてくれたのが忘れられない。

オートキャンプ組の一人、川田隆さんは静岡の産。愛車パジェロにカメラをはじめ、超望遠レンズ、大型スコープ、料理道具一式、寝具など一切を積み込み、何時どこへでも出動可能といった機動性を持った野生動物写真

伊良湖岬 バードマップ



家である。吾が埼玉県支部の10月の伊良湖岬探鳥ツアーの折には、この川田さんをお願いして、現地でワシ・タカを中心のスライドによる勉強会を予定している。トリに打ち込んでいる人の生の声、体験談が大いに期待される。余りにもトリに魅せられて、嫁探しの時間がなかった川田さんは、今もお母さんを嘆かせているのだが、本当に「誰か良い人はおらんかねエ」

■■■■■■■■■■ 汐川 ■■■■■■■■■■

シギ・チのメッカ、汐川も見逃せないポイント。渥美半島の基部にあり、豊橋からバスで約30分、谷熊台で降り、三河湾側（北）に300mも歩けば、干潟の見える防潮堤に出る。

過去においてもこの汐川干潟からの珍鳥の報告例が多かったのは、トリの豊富さに加えて、熱心な観察者、特に優秀なカメラマンの功績にもよる。その存在は、汐川の宝物。素晴らしい写真をものしておられる山形則男さんも、汐川をフィールドの一つとして居られたと聞く。

東三河野鳥同好会の調査によれば、年間86種の記録があり、個体数ではやはりカモ類が最も多く、次いでシギ・チドリ類となる。ツバメチドリやコモンシギには、ここ汐川で初対面だった。ツバメチドリは乾いた畑の中のアちこちに見られ、首を伸ばして警戒している。車では、かなり近距離まで接近できる。

■■■■■■■■■■ 蔵王山 ■■■■■■■■■■

汐川をあとにして、蔵王山へ。田原町にある標高250mの山である。

山頂近くに車を停めて、麓から上昇気流に乗って上がってくるサシバを、間近に見よう。いつも頭上を飛ぶサシバを、ここでは逆に上から見下ろしたり、目の高さを通すのが見られる。その印象は、全く別のトリかと見間違う程である。

樹氷の蔵王山と名前も同じ。低山ながら、展望が良いのも魅力。秋口には、オオルリ、キビタキ、ムシクイ類、ヒタキ類などが通過する。

■■■■■■■■■■ あしー足ー交通機関 ■■■■■■■■■■

*伊良湖ライナー：八重洲口よりの夜行高速バスで直行（要予約）

*新幹線と路線バス：東京ー豊橋（こだま）
豊橋ー伊良湖岬（路線バス）

*マイ・カー：東京ー豊橋（IC） 道路標識をフォローして伊良湖岬へ約60km

■■■■■■■■■■ 伊良湖よいとこ一度はおいで！ ■■■■■■■■■■

ワシ・タカ愛好者に限らず、一度は伊良湖岬へおいでください。次から次へ飛んでくるサシバ、ツミ、ハチクマ、またはミサゴ、ときにはオオグンカンドリなど。これらと一日中びっしりと付き合えば、ワシ・タカの識別力がぐーんと上がること請合い。今年も伊良湖岬での、多くの人との、多くの鳥との出会いを楽しみにしている。

駒込染井のカラス

馬場 昇 (大宮市)

染井地区は、現在は駒込駅北西の駒込4丁目辺りです。ここは関東大震災前は植木屋さんの大勢いた所で、震災後大宮に移転しました。そこが盆栽町です。その為か今も木が多く、鳥も結構います。カラス、スズメは当たり前として、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイが見られます。

この頃は、ゴミの為か、大きいハシブトガラスがたくさんおりまして、気味が悪い位です。女の人や子供などにはびくともせずゴミをあさっております。

つい最近の話ですが、H君は、カラスと目が合ったばかりに、後頭部をくちばしでさされ、カラス恐怖症になってしまいました。また、R君は、掃除の時に、カラスの餌らしきものを捨てたばかりに、上空を旋回され、一日中こわくて外に出られませんでした。回りの友人たちは、R君は特徴のある顔だから、カラスは絶対忘れないよと脅かすのです。彼も、カラス恐怖症になってしまいました。

駒込の染井地区に来られる時は、恐いカラスにご注意ください。

バードウォッチングを始めて

大嶋恵里菜 (熊谷市・小学4年)

わたしは、小学1年の時、父と大麻生のバードウォッチングを始めました。最初は、おもしろさがわからず、行ってもつまらないこともありました。でも今は、弟といっしょに家族で行くのが楽しいです。しかし、家のつごうもあるので、行けない時もあります。そんな時は、バードウォッチングに行きたいなあと思います。

鳥の中では、カワセミやヒレンジャクが好きです。見たい鳥は、ルリビタキです。

めずらしい鳥が出て、見そこなったり、名前がわからない時は、くやしいです。ぜんぜん鳥が出なくて、たいくつしてしまう時は、「鳥は何をしているのかな」とか、「鳥

が出てこないかな」とか思って鳥を探します。反対に、見きれない位出た時は、むねがワクワクします。

今までに、たくさんの鳥を、渡辺のお兄さんや田口のお兄さんや中村のお兄さんや夕香子お姉さんや関口のおじさんや大ぜいの人たちに教えてもらいました。

これからも、いろいろな人たちといっしょに、バードウォッチングを続けたいと思います。

12羽のシジュウカラ

江原恵子 (浦和市)

すっかりごぶさたしてしまって、もう顔も忘れられたのではないかと、子供達も心配しています。子供達はそれぞれ高校生、中学生となり、日曜日も部活に出かけてしまうので、探鳥会に参加するのもむずかしい時期になってしまいました。望遠鏡をかついでそろそろ歩いたところが、懐かしくさえてしまいました。

でも、毎月の『しらごと』を楽しみに読み、鳥を見かければじっと姿を追って、見えなくなるまで観察し、気持ちはまだまだ野鳥の会の会員です。

ところで、昨年我が家の庭にかけたシジュウカラの巣箱に、この春初めて巣を作り、無事子育ても終わったようです。

4月11日に巣を作り始め、24日目の5月5日にヒナがかえったらしく、オスが巣の中に入って餌を与え始めました。31日目の5月12日にヒナの声が初めて聞こえ、40日目の5月21日に、ついに巣立ちです。

朝の10時から10時30までの間に3羽、夕方5時30分過ぎに2羽。午後6時過ぎ、うす暗くなった頃、2羽の親が心配そうに鳴く中を次々と7羽とび出し、なんと合計12羽。あの狭い巣箱から次々と巣立つのを見た時は、家中感動と興奮で大騒ぎでした。

その後、6月20日頃まで、親2羽、ヒナ12羽がにぎやかに、というより騒々しく、1日

に2〜3回やってきては、飛び回りました。巣立った時に、まるでセミのように家の壁にとまっていたヒナ達も、一人前にエサの取り合いをするほど成長していきました。

そして、いつの間にか、あのにぎやかな声も聞こえなくなりました。みんな親から離れて、それぞれ元気でやっていることでしょう。どこかでシジュウカラを見かけると、「あ、うちの子かな」と、つい思ってしまうます。

㊦ ブツボウソウはローリング族？ ㊦ 大宮の白頭鷲

最近当支部内に英語熱が猛然と湧き上がって来て、すでにフィールドガイドの英語版を手にして探鳥会に出ている人を見るようになって、嬉しく思います。鳥名も、英名の方がズバリ直接的に特徴をとらえている場合が多く、比較して見ると面白く、英語の勉強にもなります。学生さんに限らず、皆さんチャレンジしてみませんか？ 外人バードウォッチャーにブツボウソウをどう説明しますか？

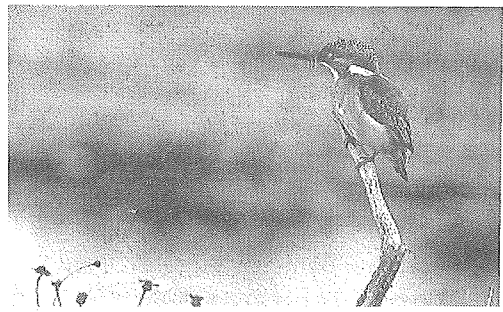
7月に大勢の眼を楽しませてくれた名栗溪谷のブツボウソウ。英名は Broad-Billed Roller (広いくちばしのローラー)。Roller とは Rolling (ローリング) をするもの。即ち、この鳥は、求愛のディスプレイの時、かなり派手に Rolling (グルグルまわる) をしたり、Turning (方向転換) したり、Swooping (急降下) したりすることから、Roller (ローラー) と呼ぶようになったとのこと。

現に、名栗溪谷で観察中にも、梢に止まる直前にヒラヒラッと激しいローリングが見られて、なるほどと納得がいきました。

また、この鳥は、オーストラリアやインドネシア等の南の国では、翼の白い紋から、Dollar Bird (ダラーバード、1ドルコインの鳥) と呼ばれています。

Broad-Billed Roller は、Broad-Billedで外観的特徴をとらえ、Rollerはその行動、動きを表わし、Dollar Bird は、その外観的特徴をうまく表現したものです。

Broad-Billed Roller が、口を広く開け



カワセミ (町田好一郎・本庄市)

て、翼のDollar Mark をひらめかせて、激しくローリングをしながら、虫を追って翔んでいる姿が、眼に浮かんできませんか？

㊦ いとしのエソビタキ ㊦ 中村 治 (上福岡市)

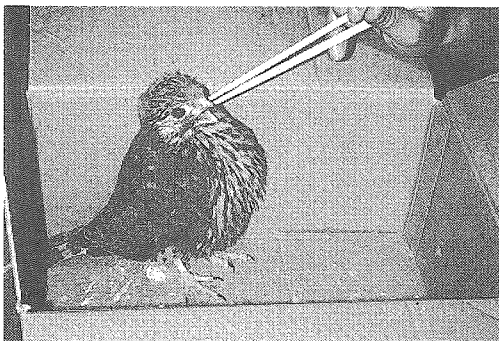
鳥を見ていると、どうしても相性の悪い鳥ができるものらしい。私の場合は、エソビタキ。人に言わせると「なんであんな鳥が見られないの？」「ごみ捨て場に群れてるのに」という鳥らしい。しかし、探鳥会でほかの人が見ているのに自分は見られなかった。Y町K山では当たり前に見られるのに、当たり前でないコサメビタキを見てしまった。O探鳥会のヒタキのなる木には毎年来ていたのに、私が参加した年には来なかった。S市I公園に数羽来ていると聞き、早速出かけたが、すべて姿を消していた……などと、次々に判明する事実。どうやら相性が悪いというより、徹底的に嫌われているようだ。

だがそんな私も、探鳥会で1度だけ姿を見かけたことがある。けれども余りにも遠く、しかもシルエットだったため、見たという気がせず、周囲の「エソビタキ」の声にも寂しく背を向けたのだった。したがって、私はまだ一度もエソビタキを見たことがないことになっている。

今年も間もなく渡りの季節。エソビタキがやってくる。しかし、こちらから探し回るのでなく、あせらず、ゆっくりと彼女(彼でもいいけど)が姿を見せてくれるのを待とう。

そんな私の隣で、K氏やW氏が叫ぶ。「見られない方に千円！」

- ヨシゴイ** ◇5月27日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で♂♀各1羽（渡辺喜八郎）。
- オシドリ** ◇5月20日、荒川村荒川岸で♂1羽。うろの多数ある大木の枝にじっととまっていた。繁殖している可能性が高い（海老原美夫）。
- ヨシガモ** ◇4月17日、志木市の秋ヶ瀬ダムで♂1羽（二村英克）。◇5月21日、戸田市道満調整池で♂3羽♀1羽（高橋達也）。
- ツミ** ◇5月18日、大宮市日進1丁目で♀1羽。右足に獲物を持っていた。見えにくくて確認できなかったが、もう1羽いるような感じだった（森本國夫）。
- チョウゲンボウ** ◇5月11日、熊谷市三ヶ尻工業団地で今年も2羽巣立つ。5月13日夕方、1羽保護。鳥肉を与え、翌日、巣近くの建屋の屋根上におく。その後、4羽上空飛行確認。夕方屋根に2羽とまっている幼鳥再確認（山口輝雄）。◇5月23日、JR新三郷駅の陸橋の穴に、餌をくわえてさかんに出入りしていた（山部直喜）。
- ヤマドリ** ◇5月14日、三峰山表参道の間あたりで♀1羽、ヒナ2羽。ヒナ連れのためか、目の前で擬傷をした（高橋達也）。
- メダイチドリ** ◇5月13日、戸田市道満調整池で1羽（高橋達也）。
- ダイゼン** ◇4月17日、志木市の秋ヶ瀬ダム右岸でムナグロ44羽の中に1羽。腋羽の黒色を確認（二村英克）。



チョウゲンボウ（山口輝雄）

- ケリ** ◇5月17日、岩槻市大口で1羽（石川敏男）。
- キョウジョシギ** ◇5月5日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。
- トウネン** ◇5月13日、戸田市道満調整池で1羽（高橋達也）。◇5月21日、本庄市の阪東大橋下流で群れ（井上幹男）。
- ウズラシギ** ◇5月21日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（井上幹男）。
- ハマシギ** ◇5月17日、戸田市道満調整池で10羽（高橋達也）。◇5月21日、本庄市の阪東大橋下流で群れ（井上幹男）。
- サルハマシギ** ◇5月13日、戸田市道満調整池で1羽（高橋達也）。
- アオアシシギ** ◇5月13日、戸田市道満調整池で3羽（高橋達也）。
- キアシシギ** ◇5月5日、深谷市の上武大橋下流で4羽（井上幹男）。◇5月17日、戸田市道満調整池で4羽（高橋達也）。
- チュウシャクシギ** ◇5月5日、深谷市の上武大橋下流で2羽（井上幹男）。◇5月17日、岩槻市増長で1羽（石川敏男）。
- アカエリヒレアシシギ** ◇5月26日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。
- シラコバト** ◇鴻巣市内荒川の河川敷で昭和62年春に初めて観察する。平成3年春から自宅周辺に住みつき、牛の餌のおこぼれをいただき、元気に鳴いている（長島岩雄）。
- カッコウ** ◇5月15日午前8時頃、川越市小堤で1羽（鈴木暁子）。◇5月15日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。◇5月16日、鴻巣市の自宅付近で昨年より一日遅れで聞かせてくれました「カッ、カッコー」（内藤義雄・洋子）。◇5月16日、入間市宮寺の狭山丘陵で1羽。上空を鳴きながら飛んでいく（渡辺 敦）。◇5月17日、戸田市道満調整池横の林で1羽（高橋達也）。◇5月18日午前4時頃、浦和市三室芝原の屋敷林で雨の降り出す前から、30分位鳴く（大武百合子）。◇5月18日、大宮市堀崎町の自宅付近で1羽（藤原真理）。◇5月19日午前6時30分、桶川市若宮の自宅。雨上がりの五月晴れの空に、北の方へ「カッコウ、カッコウ」と鳴きながら飛

びまわる(立岩恒久)。◇5月20日、大井町で1羽(林弥生子)。◇5月26日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。◇6月7日、幸手市中島の関宿橋上空で1羽(大森敬造)。

コミミツク ◇4月17日、戸田市道満調整池で1羽。足下から飛びだして、50メートル程先にとまったので見ていたら、ペリットを吐き出した(二村英克)。

アオバズク ◇5月8日、浦和市中尾で鳴き声を聞く(大武百合子)。◇5月9日、所沢市北秋津で1羽(佐藤方博)。◇5月14日未明、浦和市皇山町で今年初めて声を聞く(星崎杉彦)。◇5月23日、上尾市で1羽。けやきの葉陰から金色の眼をパッチリとあけて、こちらをのぞく(立岩恒久)。

アカゲラ ◇5月13日、大井町で1羽(林弥生子)。◇5月29日、秩父市の県民の森で1羽(北川慎一)。

キセキレイ ◇5月30日、秩父市の野外活動センターの森でオスと今年生まれの幼鳥1羽。幼鳥が甘えた声で餌をねだるがオスは幼鳥を攻撃し、追い払う。おそらく子離れの時だったのだろう(北川慎一)。

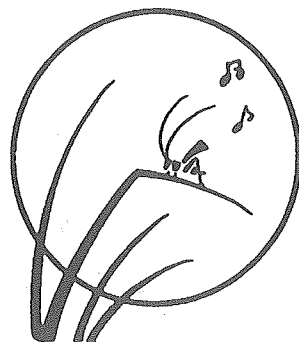
ビンズイ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(星崎杉彦)。

クロツグミ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。さえずる(星崎杉彦)。◇5月30日、秩父市の野外活動センターの森で1羽(北川慎一)。

アカハラ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で多数(星崎杉彦)。

オオヨシキリ ◇4月46日、春日部市増田新田で1羽。さえずるも不完全な鳴き声でした(石川敏男)。

メボソムシクイ ◇5月12日、浦和市秋ヶ瀬



のピクニックの森でさえずりを聞く(星崎杉彦)。

エゾムシクイ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森でさえずりを聞く(星崎杉彦)。◇5月5日午前6時20分、桶川駅西口公園で細い高い声で「ヒーツーキ……」。時々「ピッピツ」と鳴いて若葉の間をくぐりぬけた(立岩恒久)。◇5月15日、所沢市北秋津でさえずりを聞く(佐藤方博)。

センダイムシクイ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(星崎杉彦)。

キビタキ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂2羽(星崎杉彦)。◇5月7日、桶川市川田谷でさえずりを聞く(北川慎一)。◇5月10日、所沢市久米の八国山で1羽(佐藤方博)。◇5月16日、入間市宮寺の狭山丘陵で、あいかわらずキビタキがうるさい(渡辺 敦)。

サンコウチョウ ◇5月16日、入間市宮寺の狭山丘陵で♂1羽(渡辺 敦)。

イカル ◇5月5日、桶川市鴨川2丁目のいつもの林でさえずった(立岩恒久)。

シメ ◇5月24日、秩父市美の山で5羽(山岸昭治)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1991入選作

コサメビタキ(ヒタキ科ヒタキ亜科)

毎年秋になると、ヒタキの仲間が渡りの途中に立ち寄る場所があります。雲ひとつないある晴れた日、今日はあのヒタキのなる木を見に行ってみようと、思い立ったが吉日。案の定この年は、コサメビタキが2羽、しきり

にフライングキャッチを繰り返していました。止まり易そうな枯れ枝にカメラを向けてピントを合わせ、しばらく待っていると、注文どおりに止まってくれた、性格の良い子です。
登坂久雄(八王子市)

行事あんない



本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月6日（日）
集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口
（集合後、現地までバス利用）
担当：町田、北川、林
見どころ：川面を群れ飛ぶショウドウツバメ、
淋しげな笛の音はアオアシギ、草
むらにはノビタキのつぶらな瞳。利
根の川原に秋の役者たちが揃いま
した。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：9月6日（日）
集合：午前9時 JR京葉線南船橋駅前
担当：杉本、登坂
見どころ：生まれかわった干潟で快適探鳥会。
観察舎やトイレなどが整備されました。
じっくり腰をすえて、むずかしいシギ
の識別にチャレンジ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月13日（日）
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：06発または寄居9：03
発に乘車。
担当：菱沼（一）、森本、関口、菱沼（洋）
見どころ：思いがけない出会いの季節。意
外な場所であこがれの鳥にバツリ！の
可能性もある渡りの季節。落ちついて
いられないのは鳥たちだけではありま
せんね。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予
約申込みの必要はありません。受付は探鳥会
当日。参加費は一般 100円。会員及び中学生
以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、
ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行で
す。解散時刻は、特に記載のない場合、正午
から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会
埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当
者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私
達もあなたを探していますので、ご心配なく。

秋のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日（火・祝）
当支部では、春と秋の2回、独自にシギ・
チドリ類の県内一斉調査を行っています。
下記の地点の調査に、ご協力お願い致します。
*秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）
集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、水門のあたり。
担当：石井、登坂
解散は昼頃の予定。雨天決行。参加費無料。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月20日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅
東口（集合後、バスで現地へ）または、
午前9時 浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、
田口、馬場、岡部
見どころ：斜面林を訪れたエゾビタキ君。旅
の疲れも見せずに枝先でフライングキャッ
チをくり返します。その妙技、まさに
金メダルもの！

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（水・祝）
集合：午前9時 寄居駅北口
交通：東武東上線川越7：58→小川町乗継ぎ→
寄居8：51/秩父鉄道熊谷8：25に乘車。
担当：林、町田
見どころ：天まであがれ、タカ柱。上昇気流

を捕まえて、空の高みへ昇ってゆくサシバたち。見上げているうちに、何だか飛べそうな気がします。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月23日（水・祝）
集合：午前8時 浦和市西口バスロータリー
担当：福井、楠見、草間、小林（み）、手塚、伊藤、笠原、田口、嶋田、羽石、
見どころ：秋の田園散歩。ムナグロ、タシギ、ノビタキが農耕地のあちこちで羽を休めています。ヒガンバナ咲くあぜ道をそぞろ歩きながら探してみましよう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月26日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月26日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月27日（日）
集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線本川越8：42または所沢8：39に乗車。
担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、柳原、小野
見どころ：あなたは秋をどこで感じますか。空の色、雲の形、川面をわたる風のおい？ 入間川の秋はコガモが運んで来てくれます。

夕カの渡り調査

期日：9月27日（日）
恒例の調査です。一日、空を眺めているだけで、貴重なデータが得られます。初めての方も、お気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止、この場合10月4日に延期します。参加費無料。
◆天覧山（飯能市）
集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分
担当：三田

他に下記の地点で調査します。

- ◆金鑽神社（児玉町）：神社内の裏山山頂
 - ◆鐘撞堂山（寄居町）：山頂
 - ◆堂平山（都幾川村）：天文台下の駐車場
 - ◆物見山（東松山市、鳩山町）：山頂展望台
 - ◆堀之内（所沢市）：早稲田大学そば
- 調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方、ご都合のよい時間にお手伝い下さい。

- 10月4日（日） 差間探鳥会
渡良瀬遊水池探鳥会
石戸宿定例探鳥会
- 10月11日（日） 大麻生定例探鳥会
- 10月18日（日） 三室地区定例探鳥会
- 10月25日（日） 西川越探鳥会

伊良湖岬探鳥会（要予約）

期日：10月10日（土・祝）～11日（日）
定員に達しましたので締切りました。たくさんのご応募ありがとうございます。参加される方には詳しい案内書を送付致します。

新潟探鳥会（要予約）

期日：11月22日（日）～23日（月・祝）
定員：35名（先着順、県支部会員優先）
費用：約22,000円（宿泊・交通・弁当・保険・その他）。
交通：往復とも貸切バスを利用（今回は夜行ではありません）。
申込み：通常葉書に住所、氏名、性別、電話番号を明記の上、中島康夫
までお申し込み下さい。

担当：中島、松井、楠見、小林（み）
見どころ：新潟湖沼めぐり、今年も登場。ヒシクイ飛び交う佐潟・福島潟、カモ類の見本市。瓢湖など、2日かかりで徹底的にウォッチング。新潟ならではの海の幸も魅力。特にビギナーの方大歓迎です。

行事報告

5月17日(日) 浦和市 三室地区

☑ 78人 天気 晴 鳥 カワウ カルガモ
コガモ コジュケイ バン コチドリ イカ
ルチドリ クサシギ キアシシギ イソシギ
キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバ
メ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウ
カラ ヒガラ メジロ ホオジロ カワラヒ
ワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (31種) 前週の探鳥会
が、バードウィークなのに雨で中止だったか
らか、または見沼田圃の緑がきれいだったか
らか、たくさんの方が集った。久しぶり
の五月晴れで、先月と同じ代用水に沿った竹
藪コースを歩いた。このコースは初めてとい
う人が多くて、しっとりとした緑と竹の風情
を楽しんだ。いよいよ見沼田圃は、代用水と
斜面林、田植えの終わった田圃と、雨の楽し
い季節を迎える。そして、探鳥会を待って
いたように、カッコウが今年初めての声を聞か
せてくれた。(楠見邦博)

5月23~24日(土、日) 長野県戸隠・飯綱高
原 ☑ 25人 天気 23日曇後雨、24日曇時
々雨 鳥 カイツブリ アオサギ トビ オ
オタカ ノスリ コジュケイ キジ オオジ
シギ キジバト ジュウイチ カッコウ ツ
ツドリ ホトトギス アオゲラ アカゲラ
コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウ
クイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサ
ザイ コマドリ コルリ マミジロ クロツ
グミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ
メボソムシクイ エゾムシクイ センダイム
シクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ
コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤ
マガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバ

シリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ
クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイス
ズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (60種) 小雨が時々
降る天気にもかかわらず、キビタキのオレン
ジの喉、マミジロの白い眉、オオジシギの雷
のようなディスプレイフライトetc. 夏鳥を満
喫しました。新緑のブナ林を歩いた後は、恒
例の手打そばと地酒に、参加者の撮ったピデ
オで盛り上がりました。また、植物に詳しい
参加者の川那部さんのおかげで、花も楽しめ
ました。(北川慎一)

5月24日(日) 狭山市 入間川

☑ 24人 天気 晴後曇時々雨 鳥 カイツ
ブリ ダイサギ コサギ カルガモ トビ
キジ コチドリ イソシギ キジバト ヒバ
リ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス
オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオ
ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種)
集合時間前、所によってはかなりの雨が降り
探鳥会開催が危ぶまれた。しかし、集合時間
には青空が広がり、不安定な天気にもかかわらず
24名の参加者。河原では、コチドリやオ
オヨシキリを見ながらなんとかお昼まで天気
が持ってくれるようにと願っていたが、しだ
いに雲行きがあやしくなり、とうとう雨が降
ってきてしまった。稻荷山公園では鳥を見る
こともなく、コアジサイやエゴノキの花を横
目に、急いで切上げてしまったのが残念。
(長谷部謙二)

5月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

作業を楽しんだ人 浅井忠雄、荒木恒夫、榎
本秀和、海老原教子、海老原美夫、神場真文、

塩野谷静子、角田桜、中村治、柳原正昭、渡辺喜八郎、渡辺孝章（12人）

5月30日（土） 写真クラブ定例会

参加者 13人

作品発表 スライド4人、ビデオ2人

5月30～31日（土、日） 栃木県 奥日光

☑ 27人 天気 雨 鳥 マガモ スズガモ トビ キジバト カッコウ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ モズ カワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ ルリビタキ ノビタキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジウカラ ゴジュウカラ ホオジロ ホオアカ アオジ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス（40種）戦場ヶ原では、雨に濡れたノビタキにホオアカを見る。ハイライトはオオアカゲラ。巣穴に入るところから、♂♀2羽が餌をとるために何ヶ所もの木に止るところを存分に観察できた。参加者の皆様のご協力により、2日間事故もなく楽しい探鳥会ができました。（中島康夫）

5月31日（日） 大滝村 三峰神社

☑ 33人 天気 曇 鳥 キジバト ツツドリ ホトトギス コゲラ イワツバメ キセキレイ ヒヨドリ コマドリ コルリ ヤブサメ ウグイス キクイタダキ キビタキ エナガ ヒガラ シジウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス（24種）

6月7日（日） 北本市 石戸宿

☑ 61人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジヒクイナ キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジウカラ メジロ ホオ

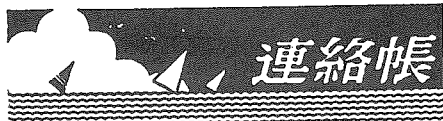
ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス（28種）埼玉県自然学習センターの6/30オープンに向けての突貫工事の音を聞きながらのスタート。（次回は完成後なので、利用の予定。）まず、病院空き地の盛土の上にキジの雄。児童公園への橋の上からは、オオヨシキリの口の中まで観察。桜堤の先では、旧河川跡の対岸の麦秋の黄色のすぐ上をツバメとイワツバメ。上空には12羽のコサギの雁行。遠方の杉の枯れた梢のてっぺんには、カッコウの姿がかすんで見えた。病院の遊水池では、ホトトギスの声、カワセミの姿と、一心不乱に巣穴をあけているコゲラ。そして、美しい玉虫の姿も観察できた。（吉原俊雄）

6月14日（日） 熊谷市 大麻生

☑ 64人 天気 薄曇り 鳥 カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ キジコチドリ イカルチドリ シロチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス（30種）梅雨入り直前の曇り空。それでも前月の雨天中止の反動か60人を越える人が集まってくれた。季節の変わり目か鳥が少なかった。それでも夏を思わせるコアジサシの涼しげな羽ばたき、カッコウのさえずりが参加者を楽しませてくれた。（諏訪隆久）

7月5日（日） 上尾市 八枝神社

☑ 30人 天気 曇 鳥 キジバト アオバズク コゲラ ツバメ ヒヨドリ スズメ ムクドリ オナガ（8種）夕暮れの探鳥会も3回目をむかえた。歩くこと約20分、神社に着く頃はあたりも薄暗くなっていた。お目当てのアオバズクが見えない。リーダーはガックリ。解散の時間が刻々と迫る頃、音もなく忍者的ごとく現れた時は、皆さん大感激。本当によかったです。リーダーもホッとしました。（乗田 実）



FAX専用回線を新設

従来電話とFAXが同一回線の切り替え式だったため、大変ご不便をお掛けしていましたが、新たにFAX専用回線を開設しました。

FAX専用番号は、048-825-0460

(電話番号は今まで通り048-832-4062)

1日24時間、常に受信OKです。野鳥情報など、事務局へのご連絡にご利用ください。

探鳥会 100回記念博物館の行事

当支部の三室地区定例探鳥会に対し、最初から共催または後援の支援をよせてくださった浦和市立郷土博物館は、次の通り100回目を記念する行事を開催しました。

写真展 『浦和に集う野鳥たち』 7月28日

(火)～8月30日(日) 支部ネイチャーフ

ォトコンテスト入選作品から40点を展示。

記念講座 講師：伊藤芳晴・手塚正義

室内会 8月9日(日)午後2時30分～4時

参加者30名。

屋外探鳥会 8月23日(日)午前9時～11時

30分 支部リーダー多数が協力。

コンテスト締め切り間近

ネイチャーフォトコンテスト1992の応募締め切りが9月15日にせまっています。今年からは、撮影意図をはっきりさせるために、種名のほかにタイトルを付けることができます。詳しくは8月号をご覧ください。

埼玉県自然学習センターオープン

当支部が隔月定例探鳥会を開催している北本自然観察公園に、自然学習センターという県の施設が7月1日にオープン。延べ床面積1,320㎡、鉄筋コンクリート造2階建の建物は、今後県内の自然保護のひとつの拠点としての役割が期待されています。

都市鳥研究会シンポジウム

テーマ 都会のツバメはなぜ減少したか?

日時 9月20日(日)午後1時～5時

場所 すみだ産業会館(JR錦糸町駅南口)

参加費 300～500円の予定

申込み はがきに住所・氏名・電話番号を書い

て、「351-01和光市本町31-16-901 都市鳥研究会(TEL0484-62-7141)」まで。先着65名。

9月の土曜日当番(2時～6時)

5日 林 慎一 藤野富代

12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

19日 長谷部謙二 羽石幸子

26日 袋づめの会(1時から)

ご寄付にお礼

アイリスメガネ50,000円、青山紘一1,000

円、伊藤芳晴2,100円、伊豆沼探鳥会21,892

円、いわき懇親会1,728円、岡野強10,000円、

金崎美代子5,000円、桜庭勇4,000円、鈴木忠

雄50,000円、総会懇親会11,244円、手塚正義

2,000円、堂坂多美子2,000円、中島康夫20,0

00円、新潟探鳥会819円、馬場昇4,000円、林

滋33,407円、丸山政弘3,000円、三菱信託銀行

浦和支店20,000円、同大宮支店10,000円、三室

探鳥会9,300円、三宅島探鳥会2,526円。

(50音順・敬称略)

会員数は

8月1日現在1,960人です。

活動報告

7月11日 三室探鳥会100回目記念行事準備作業(普及部)。

7月15日 支部長交替による『しらこぼと』発行人変更認可申請手続き(事務局)。

7月21日 博物館写真展用パネル、ビデオ等貸出作業(事務局)。

7月26日 役員会(司会・海老原美夫、事務局賃貸借契約更改・探鳥会保険継続・リーダー研修会準備・その他)。

編集後記

新人に課せられた初仕事であるという先輩部員の仰せで、後記を書いております。

版下のチェックも、ビギナーなもので、文の内容に引き込まれてしまって、まともな校正になりません。

すべてこの暑さのせいにしてしまおう。

(林 慎一)

『しらこぼと』1992年9月号(第100号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)